

『地域とつなぐ心』～保護者と共に、地域と共に～

～学校や家庭、地域が一体となった危険予測・危険回避能力を身に付けさせる取組～

札幌市立西岡小学校 校長 野澤 幸雄
〒062-0032 北海道札幌市豊平区西岡2条9-1-1 Tel (011)851-9673

I 学校の規模及び地域環境

1 学校規模

学級数13、児童数414名、教職員数28名。

2 通学路の状況

本校は、北に天神山を望み、西に望月寒川、南に商店街、東に月寒川に囲まれた月寒台地にあり、近くには、交通量の多い水源池通と福住桑園通が通っている。また、閑静な住宅街や賑わいをみせる商店街などが地域の中に混在し、本校はもとより、近隣の学校からも年間を通して不審者に関する情報が寄せられ、その数は、年を増すごとに多くなりつつある。

このような状況の中、本校の子どもが交通事故や犯罪に巻き込まれることを防ぐ取組や、子どもが自らの安全・安心を守る力を高めるための取組の、一層の充実が求められている。

II 取組のポイント

- 1 西岡小学校安全安心まちづくりプロジェクトの実施
- 2 西岡地区「子ども110番」協力員模擬訓練
- 3 「子ども110番」の家オリエンテーリング

III 取組の概要

1 取組の仮説

仮説を以下のように設定し、取組を進めた。

学校や家庭、地域が一体となって自分たちの安心について総合的な対策を講じていることにつき、自分を取り巻く人々の願いや取組の苦勞を知ることで、子どもは地域とのつながりを意識し自分の生活や安全安心について振り返り、自ら意を高め、実践的な態度を培うことができる。

2 取組の内容、方法等

- (1) 西岡小学校安全安心まちづくりプロジェクト

本概要について、安全安心マップづくりの取組を中心に紹介する。安全安心マップとは、交通事故や犯罪の面での危険箇所やよく遊ぶ場所、通学路などのヒヤリ感の情報をマップ上に表現したもので、その主な特徴は、①危険箇所などの情報が、誰もが一目で理解できる、②情報の蓄積や更新、重ね合わせ、抽出が可能なことである。それを活用した取組の主な効果は、①危険箇所を理解でき、危険回避能力が育まれる、②危険箇所の実態が分かり、的確な対策が講じられることなどである。



本校では、PTA、北海道立北方建築総合研究所、北海道警察との連携を図り、平成16年8月の会議で本校を取り巻く状況やこれまでの取組の経緯、安全安心マップづくりの見直しを確認し、校区内の危険箇所を把握した後、保護者を対象にアンケートを実施した。そして、校区の危険箇所の現地調査を行い、北方建築総合研究所の協力により「西岡小学校安全安心マップ2004夏版」が完成したのである。なお、マップには総合・現地調査・交通事故・犯罪版などがある。

平成17年2月には、『西岡小学校安全安心マップ2004冬版』のマップの作成のため保護者を

対象にしたアンケートを実施し、平成17年度になり『西岡小学校安全安心マップ2004冬版』のマップは完成した。これにより、夏と冬の交通事故や犯罪に対するヒヤリ感の比較が可能になった。その後、マップに校区内の子ども110番の家すべてを掲載し、『西岡小学校安全安心マップ2005完成版』（別紙参照）ができ上がったのである。マップは、PTAの協力を得て、本校の13学級にパネルとして作成し、配付した。また、学習用として大きな床置きマップや移動黒板式のホワイトボード付きマップも作成し、学習や学級活動等に活用中である。約1年間にわたる取組であったが、保護者や地域、関係諸機関と連携し、学校や地域の環境の改善について考えることができ、地域とのつながりや自分の生活、安全安心に対する子どもの意識は深まり、実践力も高まった。

(2) 西岡地区『子ども110番の家』協力員模擬訓練

西岡地区『子ども110番の家』推進協議会は、子どもの安全安心を守るために地域として早急な対応が必要であるという認識から、西岡地区町内会連合会が中心となって発足した。平成16年12月には、本校体育館を使用して26町内会、近隣の4小学校の関係者、関係諸機関等、約200人を超える参加の中、西岡地区『子ども110番の家』協力員模擬訓練を実施した。この西岡地区『子ども110番の家』協力員模擬訓練を終え、学校と地域、関係機関の三者による結び付きが、一段と強まった。



(3) 子ども110番の家発見!!オリエンテーリング

平成17年10月には、全校児童を町内会ごと50の縦割りグループに分け、『子ども110番の家発見!!オリエンテーリング』を実施した。この活動は、自分の家から学校までの通学路の周辺の地

域を回り、見つけた子ども110番の家を安全安心マップに記録し、子ども110番の家を実際に把握することや、子ども110番の家を訪問して挨拶の手紙を渡すことで、地域の方と顔見知りになったり、あいさつをしたりすることを目的として行った。この活動を通し、子どもは自分の登下校の通学路にある子ども110番の家の方々と実際にお会いし、これまで身近であるにもかかわらず意外と遠かった子ども110番の家の方々と親しくなることができた。

(4) 児童や保護者、地域が一堂に会した研究会

平成17年11月に開催した『学校公開研究会』の2次公開では、安全安心にかかわる取組『地域とつなぐ心～保護者と共に、地域と共に～』を共学プログラムで全校安全安心活動として公開した。また研究会当日の活動は、「危険が迫った時に、自らの判断で危険を回避できる対応力や行動力を身に付ける。」「危険を回避するためには、保護者や地域の方々、関係諸機関の方々との連携が大切であることを理解する。」ことをねらいに、以下を中心に進めた。

- 学校への不審者侵入を想定した1次避難訓練
- 不審者侵入が治まった後の2次避難訓練
- 子ども110番の家に避難した時の模擬訓練
- 町内会の方々と協力し、スーパージャンボ子ども110番安全安心マップの作成
- 保護者や町内会の方との集団下校訓練



学校公開研究会を終え、これまでの取組を振り返ってみると、校区にある186軒の子ども110番の家との連絡を取る際には、西岡・福住の2つの町内会連合会との連携が重要であったこと、活動をスムーズに進めていくためには、10の町内会長さんとの緊密な関係が極めて大切であったことに気付かされた。



- (5) 安全安心なまちづくりへの継続した取組
この一連の取組後も本校では、『子どもを取り巻く安全安心な環境づくり』と『子どもの危機回避能力や危険予測能力の向上』を目指し、以下の取組を進めている。

《子どもを取り巻く安全安心な環境づくりを》

- ア 子ども110番の家が少ない地域への新たな補充をするためのお願いをする。
- イ 不審者に出会った時の対応を児童に徹底指導するとともに、PTAの協力を得、配付した防犯ブザーの携帯調査を実施し、保護者へ防犯ブザー携帯への協力をお願いをする。
- ウ スクールゾーン実行委員会での話し合いを受け、防犯にかかわる町内会の方へのお願いの文書を作成し、10町内会の方、3800軒へ配布する。
- エ まとまって下校できる学校の体制を継続する。
- オ 下校時刻を周知し、一人になりがちな地区の重点的な巡回や見守りを地域の方へお願いする。

《子どもの危機回避能力や危険予測能力の向上を》

- ア 下校の際、子どもが複数で歩く道と一人で歩く道の調査（校区地図を使い全校児童の家庭への調査）を実施し、それを校区の地図上に色分けして表し、地域の方へ子どもが一人で歩く道への下校時の見守りのお願いをして、今後への対応を図る。
- イ 実際に保護者と児童に通学路を一緒に歩いてもらうなどして、注意する箇所や危険箇所、万が一の場合の行動の仕方を個々の状況でとらえ直す。

3 取組の成果

今回の取組を通じた、具体的な成果は、以下である。

- 子どもたちに、危機回避能力や危険予測能力の

向上を図ることができた。

- 交通安全や防犯の面で、学校と家庭が共通認識に立ち、一体となって進める安全安心指導の充実を図ることができた。
- 学校と地域組織との協力体制を充実させ、交通安全や防犯の面で連携を強化することができた。

4 取組の課題等

- (1) 子どもが自らの身を守るための主体的な力を、今後更にどのように高めていくか。
- (2) 子どもの安全安心を守る環境づくりを、今後更にどのように進めていくか。
- (3) 未来への夢や希望をふくらませる学校や地域に安全安心にくらす学校やまちづくりへの取組に終わりはない。一つの学校が、実践を通して安全安心のあり方を問い直すことは、大変なことである。しかし、教職員が協働の精神をもち、保護者や地域と共に子どもを育みつつ安全安心にくらすことのできる学校やまちづくりへの取組を進めていった時、本校や西岡の地域は、未来に向かって大きな夢と希望をふくらませる学校や地域となることを信じている。

